

拓水

〒字は 県漁連三浦会長

8 月号
No. 167

発行所
兵庫県漁業協同組合連合会
兵庫県水産業改良普及協会
神戸市兵庫区新在家町 123
発行人 三浦清
TEL 6685・686 6Jpg
編集 拓水編集委員会
発行日 毎月 30日
一部10円
昭和32年10月18日
第3種郵便物認可

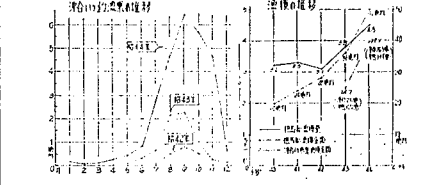
但馬漁業後継者育成対策

県下初の協議会が発足 強力な運動を展開

漁村から若い人の姿が減ってゆく。高度経済成長のなかであつて第一次産業は、都市企業への労働力供給の場になりつつある。公益がさわがれ都市に、健康な漁業後継者たるべき青年がいそいそと出て行くのが現状である。漁業はそんなワリの合わない産業といえは決してそうではない。但馬の漁業は、昭和40年約二十億円であったが、昭和45年には五十億円の大きさを越え、伸びようとしている。このさい、健康で有為な若人を漁村に定着させる方策を講じないと、今後、漁業の振興発展は期し難い。但馬地区の関係市町、漁業協同組合、但馬漁連は昭和45年7月28日、香住漁業センター会議室において協議会を組織し、「但馬漁業後継者育成対策協議会」を設立することを協議し一致決定し、この困難ともいえる対策に正面から取り組み決定を固めた。なお、地区をまたいだ後継者育成対策協議会の設立は県下初めであり、会長には、但馬漁連会長の就任を、強力な運動を展開してゆくこととなっている。

去る7月28日、香住町をみな。香住漁業センター会議室に豊岡市、竹野町、香住町、浜坂町各担当課長等が集まり、津居山港、竹野港、津居山港、香住町、浜坂町、居るが、しかし29才以下で組各漁協組合長、但馬漁連会長、作花専務、豊岡農林事務所長、小黒次長、沢田課長、県水産課田寺課長補佐、吉中漁船係長等が集まり、但馬漁業後継者育成対策について協議した。

また、就業者の状況は、若年層の就業者がくわすかであるが、増加の傾向をみせている。また、昨年の一、四四名が従事したが、このうち地元の八七三名で、全体の23%二七名は他県の漁船員に頼っている。従って他県漁船員への依存度は高い。また漁業の需要は高く、但馬の漁業の拡大、振興の願望は、この面でも制約されつつある。漁業の進展は、やはり地元、健全な有為な後継者を育成助長することが必要で



あり、出席者は「但馬漁業後継者育成対策協議会」の設立を満場一致で可決し、会長には但馬漁連会長、副会長には浜坂町、竹野町、津居山港漁協組合長が就任することになった。

そこで本年五月以降、全漁連主催のノリ生産関係では水産庁では十年後の生産量予測が主として、生産者側では、生産量の予測と、その低減がはげしく生産すること自体が問題となるのではないかと、関係者の資金不足による生産者の増大、等が予想され、従って、今後の対策として、需給調整販売（か）の拡大、等が予想され、需給調整販売の拡大が強く要請されるわけである。

生産増大に需給調整が肝要

御崎承のように昭和四十四年度のノリ全同生産は、本県でも一億六千万枚と史上最高の作柄となり、漁期終了を待たずして「平生作」の六〇〇億枚、とれたきた六〇〇億枚と、需給調整を研びました。

ノリ 今後の進め方について

この場合の検討事項としては、
○物の確保
○価格の決定
○需給調整販売による生産者の収入確保
○設備
○販売ルートの拡大
○製品の向上と生産コストの低減をはかる
○入札の調整
○需給調整販売の強化

共販 今後の進め方について

現行共販体制の強化
○各県漁連共販を更に充実させ、更なる共販の確立を確立すべきである。
○入札販売を確立し、入札高の買と量を厚くすることの必要は、今更なる共販の確立を確立すべきである。

需給調整販売は本県

需給調整販売は本県生産量（二億枚）の二割程度を対象とする。物の確保、価格の問題等は、需給調整販売を推進する。設備は既設設備の活用を考慮して考える。



乾ノリの出荷（林崎漁協にて）

船用レーダー、ロラン受信機、魚群探知機、無線通信機...
世界の漁場で活躍しています。
マリンエレクトロニクスが情報、探索、通信の分野に豊かな未来をつくり出します。
古野電気株式会社
本社/西宮市芦屋町9-52 0798(5) 2111代 支社/東京都中央区八重洲4-5 藤和ビル 03(272)9491代 ほか国内35ヶ所 海外9ヶ所

7月の漁況と海況 (内海側)

◎海況

1日～2日に実施した海洋観測結果によると大阪湾北東部で表面水温20.0℃内外、中・底層19.0℃内外で前月同期より3.0℃内外の昇温を示したが、依然として昨年より1.0℃～2.0℃低目、南海部海域では表面21.0℃～22.0℃、中・底層20.0℃～21.0℃を示し半平流かやや低目に推移した。また3日～4日の播磨灘では全海域とも表面水温20.0℃～21.9℃で昨年並かやや低目を示し前月発生した西部海域における底層の低水温域は14.0℃台で引続き半平流～4.0℃の異常冷水塊が持続している。一方17日～18日に実施した紀伊水道北部の海洋観測結果では東・中部海域では表面23.0℃～24.0℃、底層19.6℃～21.1℃、西部では上・下層共に21.0℃内外を示し全海域にわたって昨年より1.0℃～2.0℃低目に推移し前月同期より1.0℃～3.0℃の昇温だけにとどまった。

◎漁況

(概況) 前月に引続き上る潮、鹿の瀬漁場を中心として操業中のイカナゴパッチ網は月前半までは連日好漁が続いた。月後半に入りやや低調となったが本年は漁期が長く依然活況を呈している。また各地ともタコ漁の本格的なシーズンに入り並網、一本釣、小型底曳網などで昨年引続き順調な漁獲を続けているがスズキ、マルアジ、などの一本釣は低調となった。一方各地の小型底曳網は出漁船が最も多い時期で現在エビ類、タコ、アナゴなど漁獲対象となっているが、例年に較べて高級エビの入網が少なく水揚げは伸びずややみ状態ではなかでも鳴門南北海域で操業中の小型底曳網は南部ではエビ、カレイ類北部ではキス、カレイなどの大目入網減少で近年になく低調である。反面同海域での延縄漁は連日好漁が続いている。また昨年同期各地で活況を呈したチヌオの曳網約は現在高知南部海域で操業されている程度で大阪湾、播磨灘では本格的な操業は行なわれていない。

◎各地

- 神戸西部** 小型底曳網1日1隻エビ(カワツ)30キロ、キロ当たり1,000円、タコ20キロ、キロ当たり300～500円、メイタカレイ3キロ、キロ当たり1,200～1,500円、13隻アナゴ網1日1隻20～30キロ、キロ当たり350～450円、6隻。
- 明石浦** イカナゴパッチ網1夜1隻、月前半2,000～4,000キロ、月後半1,000～1,500キロ、キロ当たり25～30円、75隻漁之瀬。アジ曳網1日1隻、50尾内外、1尾100～130円、50隻。スズキ一本釣1日1隻3～5キロ、キロ当たり2,000～3,000円、20隻。小型底曳網1日1隻エビ10キロ、キロ当たり350～500円、アナゴ20キロ、キロ当たり300～400円、タコ15キロ、キロ当たり300～500円、ハリイカ5キロ、キロ当たり500円、カレイ類3キロ、キロ当たり1,500円、20～50隻。
- 見** 小型底曳網1日1隻、ベラ5キロ、キロ当たり500円、アブラメ3キロ、キロ当たり200円、タコ10キロ、キロ当たり400円、20～25隻。タコ並網1日1隻60キロ、キロ当たり500円、3隻。ベラ釣遊漁100隻。
- 岩屋** エビ並網1日1隻50キロ(大30キロ)(小)250円、30隻。タイ五割網1日1隻、4～5尾目録1.2キロ内外、キロ当たり2,500円、5隻。アジ一本釣100尾、1尾80円10隻。タコ並網20～30キロ、キロ当たり500円、5隻。タコ一本釣15キロ、キロ当たり400円、10隻。スズキ一本釣2～3尾目録1～2キロ、キロ当たり2,500～2,700円、60隻。
- 飯屋** 小型底曳網1日1隻、エビ30キロ、キロ当たり380円、アナゴ30キロ、キロ当たり200円、ハモ5キロ、キロ当たり750円、外タコ、シャコエビ、40隻。
- 由良** 小型底曳網1日1隻、エビ(カワツ)20キロ、キロ当たり800円、キス3～4キロ、キロ当たり600円、ハモ2キロ、キロ当たり1,200円、タコ10キロ、キロ当たり400～500円、40隻。タイ底曳網1日1隻20キロ、キロ当たり2,000～2,200円3隻。アジ、サバ一本釣100尾(アジ)70円(サバ)30円、40隻。
- 沼島** 小型底曳網1日1隻、エビ30～40キロ(大)キロ当たり450円(小)150円、アナゴ10キロ、キロ当たり180円、外エソ、ハモ、シャコエビ、手袋タコ各2～3キロ内外30隻。タコ並網1日1隻50キロ、キロ当たり400円、4隻。建網1日1隻アイゴ(2～3才もの)100キロ、キロ当たり500円、25隻。アジ、サバ一本釣1日1隻70キロ(アジ)300キロ、キロ当たり230円(サバ)70円、50隻。タコ一本釣10キロ、キロ当たり430円、ハモ網10キロ、キロ当たり900～1,000円。
- 福良** タチウオ曳網1日1隻、80～90尾(20キロ)キロ当たり200円以上250円、以下40円80隻。サバ一本釣1日1隻100キロ、キロ当たり100円、50隻。タコ並網1日1隻、120キロ、キロ当たり350円、3隻。タコ一本釣15キロ、キロ当たり350円、100隻。小型底曳網1日1隻、エビ20キロ、キロ当たり150円、赤貝50キロ、キロ当たり100円、35隻。
- 丸山** 小型底曳1日1隻、エビ40キロ、キロ当たり120円、シャコエビ40キロ、キロ当たり100円、11隻。タコ並網10隻50キロ、キロ当たり480円、8隻。延縄1日1隻、カサゴ50キロ、キロ当たり550円、アコオ12キロ、キロ当たり900円、15隻。建網1日1隻、アマ・イシ、カレイ7キロ、キロ当たり800円、メイタカレイ6キロ、キロ当たり90円、8隻。

◎本月の特記事項

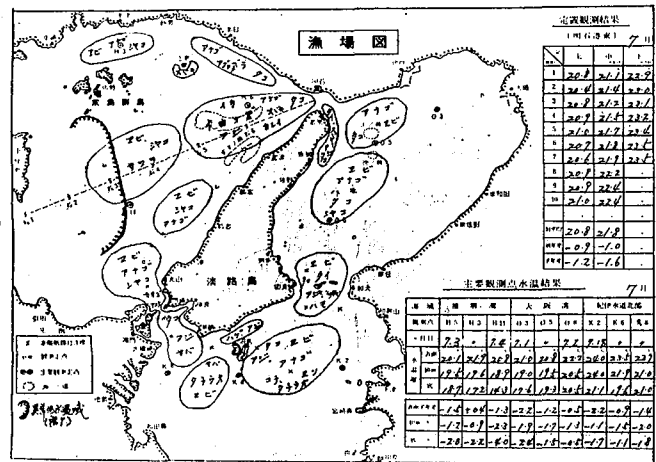
前月に引続きイカナゴパッチ網の好漁、本年は例年にくらべ水温上昇がおくれたので漁期が2旬程長く続いている。しかも昨年の約1.5倍(キロ当たり25～30円)の高値を保持し前半1隻3,000～4,000キロ、月後半の終漁期の現在でも1,000～1,500キロと近年ない好水揚げが続いている。

鳴門海峡および周辺のカサゴ、アコオ延縄1日1隻、50～70キロ、タコ並網1日1隻120キロ内外の好漁が持続しているが、反面本月に入って同海域での小型底曳網の不振が目立っている。

沼島周辺で操業中の建網で連日アイゴの大漁が続いている。(1日1隻100キロ内外)また前月に引続きウマズラハギ(全長15～20cm)の来遊が顕著で延縄網に大量入網するが網の損傷とキロ当たり20円という不安定のため漁獲対象より外している。

◎今後の見込

タチウオの大阪湾、播磨灘への回遊が低水温の影響などで昨年より2旬おくれ現在紀伊水道北部海域に主群が来遊しているが、魚群量はかなり少ない模様で、従って昨年のような豊漁は期待薄だろう。魚体については昨年同期と比較して小型(200g以下)のものが多。(水試・岩井)



(4) 斃死魚の処置

養魚場が魚が斃死した場合、斃死魚は殆んどすべて周囲の海上へ投棄している。魚を陸上へ取揚げて焼却している業者は如く稀で、一、二業者に過ぎないと思う。

養魚場へ出向ければ周囲の海上にハマチの斃死魚体が波間に漂っているのをしばしば見受け、魚が斃死する場合にはその被害の大小に拘らず、魚は何等かの病気が死因であって病気がなければ魚は死なない筈である。

人間の場合には伝染病であれば消毒し、隔離処置がとられる。家畜では屠殺場に回され処理が焼却処分に行われる。

従って、魚も斃死魚がれば是非其一ヶ所に集めて陸上で焼却する必要がある。

この処置を怠れば自分の漁場の健康魚にも影響するし、さらに養魚場が隣接しておれば他の漁場の魚にも影響を及ぼすことがしばしばある。

従って、病気の蔓延を防ぐために斃死した魚は海上へ棄てず陸上に持ち帰り焼却処分するよう心掛けて欲しいのだ。

特に、仕切網養魚の漁場は年々の行使で老朽化し、漁場は悪化してゆくから、魚にも住みよい環境を与えてやるためには斃死魚の処置を確立してもらいたい。(水試・片嶋)

今や、我が国の漁業者の生計維持の基である漁船の数は、二十余万隻に達しているが、これら内津女浦々に散在する数多くの沿岸小漁船が危険に曝されていくことは長い歴史を誇る民間損害保険会社として、引受けることが喜ばしく、それ故に国は漁業者の為に特別に漁船損害賠償法を制定し、これに基づいて行う漁船損害賠償事業を推進する傍、保険料の一部を国庫負担する等、各種に亘り助成措置が行なわれている。兵庫県内海域では、四十四年度で四七六一隻の漁船が保険を利用しているが、まだ未加入船もある。今後、漁業者も大いに漁船保険を利用してほしいものである。漁船保険は普通損害

保険と満期保険の二種類のものがあつた。普通損害保険は現在一番利用されておいてはあまり知られていないが、この保険については漁業者にとって、今日でも漁業に欠かせない。今日も漁業者にとって一番有利な保険となつて、いまこの満期保険とは、一種の養老生命保険ともいわれ、利益と保険との掛け合いにならなく、喜ばれる漁船保険

しかも、損害に対する安心感を得ながら時替も兼ねる保険です。この満期保険とは、漁船の耐用年数に及び、毎年減価償却する減価償却費に相当するものと解釈しても差支つかないものである。この償却費を一定期間積立ることによって満期時には、保険金額が受けられ、代船建造費に充てられる。

この一定の保険期間は、3年、6年、9年と三種あり、一番理想とするのが6年です。満期保険は積立保険料と損害保険料からなり、積立保険料とは、満期時に支払われる保険金額に充当するものです。損害保険とは、事故が発生した時に支払われる保険金に充てられる保険料です。満期時に受取る保険金額は一定額積立した保険料に一定利率による利子を加わって保険金額となつて得られます。又事故が発生した時に充てる損害保険料にしましても、年々安くなり、一番利用されている普通損害保険の保険料より安くても対応する価値があるのであります。ただ一度に納める保険料が少し高いが、時替する意味で満期保険を利用して下さい。

いつも漁場に一番のり

- 主機用 4～1000馬力
- 補機用 8～3000馬力

●3J E形/30馬力

ヤマハエンジン

養魚の調餌と造粒は

コウベヒラガのミートチヨッパーで

養魚用ミートチヨッパーNo.32からNo.72まで各種製作しています。又最近の人工餌料需要の増加にともない生魚と人工餌料をよく練り合せ造粒装置付チヨッパーで給餌することもできます。

(例一報次第カタログ贈ります)

ミートチヨッパーとプレート、ナイフの専門工場

株式会社 平賀工作所 神戸市長田区水笠通3丁目8
TEL 代表神戸(078)62-1527

夏期研修会開催される
講演要旨紹介

最近における沿岸漁業の課題には、漁獲物の鮮度保持とノリ養殖の経営問題があげられる。このほど県水産課主催で次のとおり研修会が行なわれたので、その講演要旨を紹介する。

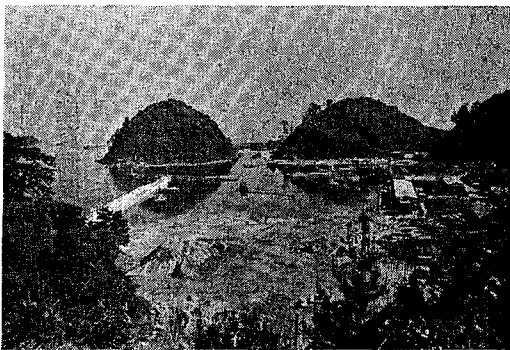
「ノリ養殖の経済的な考え方」七月二十九日 東海区水研 野口栄三郎氏 神戸市にて

漁獲物の鮮度保持と蓄養

今日のように食料が豊富とシメ方にそのポイントがな時代には、無意味でかかっている。魚の鮮度は、筋肉中のATP(アデノシン三リン酸)の量が関係する。魚を苦みさせると急激にATPが減少するので、即殺(延びない殺)が効果的である。また、急激な温度変化によってもATPが減少する。また、急激な温度変化によってもATPが減少する。また、急激な温度変化によってもATPが減少する。

新しい港の入港の日を迎えた
居組漁港 (第二種漁港)

本港は旧馬場地区漁港、地機船底曳網漁業、一本釣漁業が中心の第二種漁港である。本港は結川の河口で、



居組漁港

差を保つことが必要。魚を蓄養する場合、餌を暗くする、酸素補給、温度を下げるなどの手段が効果的である。また、飼育水についても溶存酸素、アミノ酸、炭酸ガス、水素イオン濃度(PH)等の水質条件に注意が必要。よく使うから低温を保つことに炭酸ガスの蓄積が有害で、により防止できる。

ノリ養殖と経営計画

今までのノリ養殖は生産(ゼロ)が判るので経営上の技術だけでやれたが、これからの生産時代には、経営努力が求められる。省力機械を入れた場合、努力が減少すれば、それだけ利益が増える。従って、収量(収入)増加に伴わないこと、それだけ利益が減少することになる。密着は生物学的にも良くないが、経営学的にも良くない。養殖細数に比例して利益がふえないので適度の密度を維持する必要がある。

本港は旧馬場地区漁港、地機船底曳網漁業、一本釣漁業が中心の第二種漁港である。本港は結川の河口で、

工事経歴 S. 45年度迄

Table with 5 columns: 事業名, 計画事業費, 実施年度, 実績事業費, 備考. It lists various construction projects like '第1次修築事業' and '第4次修築事業' with their respective costs and years.

第4次整備計画概要

Table with 6 columns: 施設名, 工事種目, 全体計画, 44年度, 45年度, 残工. It provides a detailed breakdown of the 4th construction plan, including items like '防波堤' and '岸壁'.

Table with 4 columns: 商品名, アルカリの影響, 酸性薬品の影響, 耐熱性(屋外暴). It lists various chemical products like 'ビニルデン', 'ナイロン', and 'ポリプロピレン' along with their properties and effects.

Large advertisement for '海苔業界にご奉仕する' (Serving the seaweed industry). It features two models of seaweed drying machines: 'デカ式海苔干燥机' and '大曲式海苔乾燥機'. The ad includes the company name '三洋商事株式会社' and contact information for various branches.

